



被団協



● 発行所
北海道被爆者協会
札幌市白石区平和通
17丁目北6-7

北海道版 北海道ノーモア・ヒバクシャ会館内
TEL/FAX 011-866-9545

北海道被爆者協会 ホームページ [http:// h-nomore-hibakusha.org](http://h-nomore-hibakusha.org) メール dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp

「日本被団協がノーベル平和賞を受賞」 核兵器も戦争もない世界に むけて思いを新たに

10月11日夜、突然ビッグ・ニ力は、核兵器の使用は道徳的にユースが飛び込んで来ました。容認できないという「核のタブエツ? エツ: エツ!! 日本被団協」を強力な国際規範にしたと。が今年のノーベル平和賞を受賞 原爆投下を引き起こした惨劇したのです。

ノーベル賞委員会が、核兵器のは言えません。助けてとも言え使用をめぐっていまほど国際情勢が緊迫しているときはない、親や友人・知人をどうすることもいまこそ被爆者の「出番」だと考 もできず見殺しにして逃げざるえたからに違いありません。 授賞理由は言います、核兵器 をえなかった人々、そしてからの使用は壊滅的な人道的結果を うじて生き延びた後も被爆の後もたらす、被爆者の並外れた努 遺症と発症の恐怖が……。



廣田会長談「いままで先輩たちが一生懸命訴えてきたことが認められたので、後に残されたものとしては正直うれしいです。しかし核を巡ってどうなるかわからない緊迫した情勢です。ですから、日本政府としても核兵器禁止条約にぜひとも参加してほしいと思います。私たちが受賞を機に、核兵器の廃絶に向けていっそう頑張らなければならぬと思っています。」

1956年に日本被団協が結成され、1960年に北海道被団協(現北海道被爆者協会)が誕生しました。そして被爆者の援護と「再び被爆者をつくらない」と訴え続け、自らの被爆体験を語ってきました。その長年にわたるたゆまざる繰り返しの中「核のタブー」は形成されてきたのです。

さまざまな苦難を乗り越えて運動にまい進されすでに鬼籍に入られた被爆者、私たちの運動を支えてきて下さった人々、多くの方々に受賞のことをお知らせし、核兵器のない世界に向けてさらに努力していきます。日本政府には何よりも核兵器禁止条約への参加を求めます。

お祝いのメッセージとともに 会館見学者増える

たくさんの関係者、支援者・支援団体、政党等からノーベル平和賞受賞のお祝いのメッセージが寄せられました。今日15日にはこの夏「朗読劇」をしてくれた札幌南高定時制の皆さんから、長崎の平和祈念像のモザイク画

